

地域包括ケアシステム (医療と介護の連携) ー行政との連携進捗状況ー



宇都宮市医師会在宅医療・認知症担当理事

村井クリニック院長 村井 邦彦

宇都宮市では、宇都宮市保健所総務課を中心に医療・介護に関連する13団体が協働して「宇都宮市地域療養支援体制検討会議」を開催し、退院支援構築、連携体制、看取りの理解、リハビリ、そしてこれらの研修会開催等について検討を進めてきましたが、平成29年度より「宇都宮市高齢福祉課地域包括ケア推進室」が新設され、機能が移行されました。これにより、宇都宮市の各部署に横申を通す地域包括ケアシステムの構築が一層強力に推進されると期待しています。今後は、「医療・介護」に加え、「生活支援」、「介護予防」、「住まい」といった医療の先にある生活全般の体制整備を含めた会議体の再編成が行われる予定ですので、宇都宮市医師会として積極的に参加してゆくつもりです。

宇都宮市医師会では、県の「医療・介護連携推進事業」を平成28年度から開始し、宇都宮市との協議を重ねながら市内を5ブロックに分けて医療介護連携を推進する仕組みの構築を進めています。

各ブロックの拠点には、基幹病院の地域連携室等を位置づけ、地域包括支援センター、ケアマネジャー、介護保険事業所との「ブロック連携会議」を定期的に開催し、困難事例の解決や地域課題の抽出について検討する仕組みの構築を進めています。また、地域包括支援センターが開催する「地域ケア会議」への参加や、「認知症初期集中支援チーム」等への参加をするとともに、総合事業の充実に資する「第2層協議体」を支援し、地域力の向上を図ります。各ブロックの連携拠点は、北・東ブロックはNHO宇都宮病院、西ブロックはNHO栃木医療センター、中央ブロックは済生会宇都宮病院、南ブロックはJCHOうつのみや病院がこれらを担当します。

5つのブロックの「地域連携基幹拠点」には宇都宮市医師会を位置づけています。相談員には保健師を配置し、医療・介護連携の推進のために、地域包括支援センター職員・ケアマネジャーとの勉強会・意見交換会を開催するとともに、関係多職種からの相談業務や連携支援を行っています。そして、各ブロック連携拠点の参加による連絡会議を開催し、地域課題の抽出・解決と、市への政策提言等を検討します。また、「在宅サロン」を医師会館にて月1回開催して地域包括ケアに関わる地域包括支援センター職員・ケアマネジャー等と時事問題を含めて意見交

換するとともに、住民主体の取り組みを推進する「第2層協議体」の設置や、生活支援コーディネーターの養成にも勉強会開催を通じて支援していきます。



「地域連携データベース」ポータルサイトでは、地域の医療・介護・生活支援の資源マップ、地域のパス・ルール・書式等のダウンロード、研究会・勉強会情報などを提供します。

「在宅医を増やし支える取り組み」については、在宅医のための代行往診システムとして主治医・副主治医（代診医）制、サマリー情報共有を整備しました。現在は、在宅療養後方支援病院、アセスメント病院の位置づけ（アセスメント項目・アセスメントシート策定）を検討するため、後方支援病院ワーキンググループを医師会内部に設置して、情報提供のための調査項目の策定を急いでいます。引き続き在宅医療への同行訪問を調整する機能も担います。

目下の課題は地域包括支援センターの支援です。「宇都宮市地域包括支援センター運営協議会」に参画し、センターの評価制度の見直し等の協議を行っています。今後ますます地域包括支援センターの役割は重要となりますので、その役割に応じた運営ができるよう支援していくつもりです。

以上、簡単ではございますが、宇都宮市の地域包括ケアシステム構築における市と郡市医師会の連携についてご報告させて頂きました。

平成29年10月からは、宇都宮のコミュニティFM「ミヤラジ」と毎週木曜日13時より30分の番組枠を契約し、地域包括ケアシステムに関連したテーマで、医療・介護の専門職の輪番で番組を放送しています。お聴きになってみて下さい。

※この原稿も、行政と連携して作成しました。

